

平成 25 年 7 月 31 日

平成 25 年度病害虫発生予察特殊報（第 2 号）

和歌山県農作物病害虫防除所  
TEL 0736-64-2300

1. 病害虫名 キク茎えそ病

2. 作物名 キク

3. 病原名 キク茎えそウイルス (*Chrysanthemum stem necrosis virus*; CSNV)

4. 発生地域 紀北地域（紀の川市）、紀中地域（有田郡有田川町）

5. 発生確認の経過

1) 平成25年6月に有田郡有田川町の施設栽培キクで葉に退緑、茎にえそ症状を示す株が発生した。症状からウイルス性病害が疑われたため、和歌山県農業協同組合連合会植物バイオセンターにおいて、遺伝子診断法（LAMP法）によりキク茎えそウイルス（以下、CSNV）の感染を確認した。また、同年6月に紀の川市の施設栽培キクで同様の症状を呈する株が発生し、和歌山県農作物病害虫防除所において遺伝子診断法（RT-PCR法）により、CSNVの感染を確認した。

2) 本病は平成18年に国内で初めて広島県において発生が確認され、平成25年7月現在、23県から特殊報が発表されている。

6. 病徴および病原ウイルスの性質

発病株は茎にえそ症状、葉に退緑、えそ症状を生じる（写真1、2）。病徴はトマト黄化えそウイルス（TSWV）によるキクえそ病に酷似する。

病原ウイルスの CSNV はミカンキイロアザミウマ（写真3）によって媒介される。ミカンキイロアザミウマは、一齢幼虫が罹病植物を吸汁することでウイルスを獲得し、永続的に伝搬するが、経卵伝染はしない。罹病株からの挿し穂等の栄養繁殖によっても伝染するが、種子伝染および土壌伝染はしない。

7. 防除対策

1) 発生ほ場では感染株を処分し、二次伝染を防止する。罹病株を親株として使用せず、発生ほ場では、ウイルスに感染していない親株に更新する。

2) CSNV は栽培作物ではキクのほか、トマト、ピーマン、アスター、トルコギキョウ等で確認されている。これらの感染株は伝染源となるため、見つけしだい抜き取って適切に処分する。

3) 媒介虫であるミカンキイロアザミウマを防除する。特に親株、育苗床など低密度時の防除を徹底すると効果が高い。



写真1 茎のえそ症状



写真2 葉の退緑・えそ症状



写真3 ミカンキイロアザミウマ